

みなさんこんにちは!

新しく来られた先生の紹介をいたします。

蓮井良浩 (はすい よしひろ) 54才

- 【担当科】泌尿器科
- 【出身大学】宮崎医科大学
- 【趣味・特技】スポーツ (バスケットを昔やりました)
- 【自己PR】この病院で、独自性の特徴を持った泌尿器科に発展させてゆきたいと思えます。



内之倉俊朗 (うちのくら しゅんろう) 40才

- 【担当科】脳神経外科
- 【出身大学】宮崎医科大学
- 【趣味・特技】筋トレ、水泳、自転車
- 【自己PR】脳手術以外にも脊柱、血管内手術に頑張ります。



記念病院 理念 「人間愛」

記念病院 基本方針

1. 患者様の人権と意思を尊重し、患者様の立場に立った医療を提供します。
2. 地域の中核的病院として、専門的且つ高度な医療を実践します。
3. チーム医療を推進し、より良い医療を目指します。
4. 豊かな人間性を兼ね備えた医療人を育成します。
5. 職員が意欲を持って働ける職場環境を作ります。

あ **と** **が** **き**

皆様は、どのような音楽を聴いていますか?一般的には、J-POPやROCKなどを聴いている方が多いかと思えます。私自身もそうでした。しかし、最近では、クラシック音楽を聴くことが多くなりました。最初からクラシック音楽が好きだったわけではなく、「クラシック音楽なんて古い」とか「正直、興味がない」などと、つい最近までそう思っていたものです。

クラシック音楽を聞くきっかけとなったのは、学生時代に、某テレビ番組を視聴してからです。放送されていた内容は、音楽の力というものでした。取り上げられていた音楽家は「モーツァルト」で、モーツァルトの音楽には、「便秘を改善させる」とか、「リラクゼーションを促進し、心拍数を減らす」などの効果があるというものでした。「本当にそのような効果があるのだろうか」と疑問を抱くようなものですが、実験VTRで、その効果が実証されたというのを見たのがきっかけでした。

当時、便秘気味だった私は、「音楽を聴くだけで便秘が改善されるなら」と思い、騙されたと思ってCDを買って、半信半疑で聞き始めたのです。CDを買ってからは、毎朝、起床してから通学前までモーツァルトを聴くことにしました。実際、聴かなかつた時と比べて比較すると、排便までの時間が早まったような気がしました。排便がない日もありませんでした。初めてその効果が得られた当時は、本当に身体に影響を及ぼす音楽も存在するのだと実感したものです。

最初は、モーツァルトの音楽しか聴いていなかった私ですが、最近では、様々な音楽家のクラシックを聴いています。音楽の効果が期待していた私ですが、いつの間にか、クラシック音楽そのものが好きになっていく自分を感じました。勿論、今でもクラシック音楽の効果の追究は怠っていません。皆さんも、たまには異なるジャンルの音楽を聴いてみてはいかがでしょうか。もしかすると、思いがけない効果を発揮する音楽に出会えるかも知れません。

潤 うるおい

No. 39

2010年
1月1日発行



(財)潤和リハビリテーション振興財団
潤和会記念病院

病院長 呉屋 朝和
〒880-2112 宮崎市大字小松1119番地
TEL0985-47-5555 FAX0985-47-8558
http://www.junwakai.com

あけましておめでとうございます。

本年も皆様方のますますのご健勝ご発展をお祈り申し上げます。

潤和会記念病院 院長 呉屋 朝和



我が国の医療は長い間に構築されたヒエラルキー構造の中でひずみが生じ、それを改革しようと施行してきた医療制度の変遷に伴って、予期しない方向へ向かい、医療崩壊が叫ばれてきています。経済発展の沈滞、少子高齢化社会、生活習慣の欧米化、情報化社会などの到来によって、この10年の変遷はめまぐるしく、制度そのものが時代の流れについていけない状態となってきています。

我々、医療福祉施設で働くものにとっても、病院や診療所の地域社会の中でのあり方、役割が多様になり、古い病院の概念から新しい思想に変化していくことがなかなかスムーズに行かずに、苦悩が続いているところです。

全体の医療のうねりの中では、地域医療の再生に向けた総合的な対策が官民ともに喫緊の課題となってきています。

地域内における医療機関の機能強化、機能役割分担を進めるための連携強化、勤務医、看護師、薬剤師、理学療法士などの勤務環境改善、大学病院などと連携した医師派遣機能の強化、医療機能の連携、周産期、小児科診療、救急医療体制の整備、などが挙げられています。

これらのことを踏まえた上で、それぞれの医療機関は地域社会に何が貢献できるか、を考えていかなければなりません。

我々の組織で何が可能かということになりますが、可能性が高いのは救急患者受け入れ態勢の充実を図っていくということになります。これは診療所や小さい病院ではできないことです。多忙な日々の中で大変なことではありますが、救急車のサイレンが聞こえたら、自然にいつの間にか救急室に人が集まってくる様な形が

できると好ましい姿になっていくものと思えます。医療人として、一人ひとりが大きな役割を果たしていくことができるようになりたいものだと思います。組織のために働くのではなく、我々の持てる力を地域に還元していく、という姿勢が大切であると感じています。

潤和会記念病院もこの10年間に、「坂の上の雲」風にいえば「小さい組織から、開花期、発展期を迎え」、人材の確保をはかり、診療機器を少しずつ充実させてきました。医師、看護師、薬剤師、放射線技師、検査技師、理学療法士、そのほか多彩な職種の人たちも増えて、診療科も充実してまいりました。専門的な病院を目指してきましたが、患者の中には複数の疾患を有する人も多く、診療科の拡大も、考えていかなければなりません。まだまだ医療制度の中で力を発揮していくには人材不足でもあります。

中長期計画としては、医療者が充実して働き、地域に貢献できる組織編成をしていきたいと思えます。病院のセンター化構想の中で、脳神経センター、消化器センター、リウマチセンター、画像診断センター、などがすぐにも再編構築できる可能性があります。これらの診療機能を充実させるためには、病院間の連携、病院-診療所連携などを積極的に行っていく連携室の働きが重要になってきます。各診療科と連携室が手を携えて講演会を開くなどの行動を始めていくところで、大いに期待しているところです。

ますます、多忙な日々が続きますが、本年も皆様方が健康で元気に活躍されることをお祈り申し上げます。

2009年10月より泌尿器科を開設しました

泌尿器科部長
蓮井良浩

昨年10月より泌尿器科を新設しました。一般の方にとって泌尿器科と聞いても、何を扱う科であるのかを明確に答えられる方は少ないと思いますので、泌尿器科について説明致します。

泌尿器科とは

- (1) 尿を作る腎臓と
- (2) 尿の通り道である膀胱及び尿道までと、
- (3) 男性生殖器である前立腺、睾丸、陰茎を対象とします。

その中で取り扱う疾患は

- (1) 悪性腫瘍（腎臓がん、膀胱がん、前立腺がんなど）、
- (2) 腎・尿管結石、
- (3) 尿が出にくい排尿障害（前立腺肥大症、神経因性膀胱など）、
- (4) 尿が近い頻尿（過活動膀胱など）、
- (5) 尿が漏れる尿失禁（切迫性や腹圧性など）、
- (6) 細菌が原因の感染症（膀胱炎、腎盂腎炎など）、
- (7) 生まれつきの奇形である先天異常（停留精巣など）などがあります。



また、小児から高齢者まで男女を問わずすべての年齢層を対象としていることも特徴です。膀胱炎の方に、悪くなったらすぐに泌尿器科を受診して下さいと言うと、「産婦人科が膀胱炎の専門やろう」とよく言われます。このことから、もう少し一般の方に泌尿器科を認識していただくための宣伝が必要と思っています。

泌尿器科の病気は排尿という生活と密接したものが多く、頻尿と突然に出現する、押さえきれない強い尿意を感じる方は過活動膀胱で、40歳以上の12.4%（800万人以上）という多数の方に症状が認められます。新しい薬剤で症状が改善することが多いのですが、間違った使用をされると排尿困難や膀胱炎を起こされたりしますので、泌尿器科を受診した方が良いと思います。男性の排尿困難の代表的疾患である前立腺肥大症は60歳以上で60%以上の方に前立腺の重量の増加がみられることから起きるもので、症状を点数化して治療の必要性を決定します。非常に有効な薬剤がありますので、手術する方は少なくなっていますが、薬剤が有効でない場合はやはり手術しかないのですが、現在はお腹を切らないで経尿道的に前立腺を切除する術式が主流で、手術器具の進歩によって副作用が非常に少なくなっています。

前立腺がんは、現在男性のがんの中で最も頻度の高いがんとなっています。前立腺がんの症状は進行して転移を起こさないと現れませんので、症状がないうちに見つけないと、根治する（完全に治す）ことができません。このためには前立腺がん検診でのPSA（前立腺がんの腫瘍マーカー）採血を行って、早期に発見するしかありません。PSAは前立腺がんの80%を検出できますので、是非とも50歳以上の方には検診を受けて欲しいと思います（当然、当院でも検査でき、がんの確定診断も行っています）。根治治療の方法は手術と放射線治療がありますが、その放射線治療に関して当院では高精度放射線治療システム（トリロジーシステム）を利用しての放射線治療を行っていて、副作用も軽度の頻尿がみられる程度で、問題なく治療ができています。

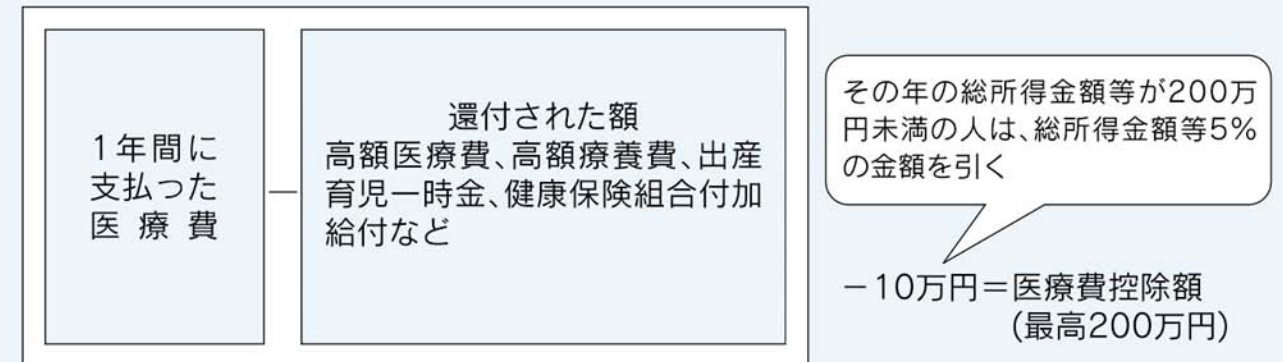
まだまだ、泌尿器科について語り尽くせないのですが、高齢化社会にあって、泌尿器科疾患は増加の一途をたどっています。潤和会記念病院泌尿器科を、皆様方と一緒に、独自性の特徴を持った泌尿器科に発展させていきたいと思っていますので、よろしくご厚意申し上げます。

確定申告における医療費控除について

もうすぐ確定申告の時期になります。そこで今回医療相談室からは確定申告における医療費控除についてご紹介させていただきます。

確定申告の医療費控除とは、前年一年間(1月1日～12月31日)に支払った医療費自己負担額の総額が10万円を超えた場合、または合計所得金額(世帯合算)の5%を超えた場合(どちらか少ない額)に、医療費控除が受けられるというものです。

◎医療費控除額算出方法



医療費の対象項目

対象項目

- ・医師・歯科医師による診療費・治療費
- ・治療・療養のための医薬品の購入費
- ・病院・診療所・介護老人保健施設・指定介護老人福祉施設・助産所の入院・入所費などは控除
- ・介護保険制度のサービスを利用した費用
- ・交通費、入院中の部屋代や食事代、医療用器具の購入代やレンタル料で通常必要なもの
- ・6ヶ月以上寝たきり状態で、医師がおむつを必要と認めた人のおむつ代(おむつ使用証明書必要)
- ・ストーマ用器具代…など

対象でない項目

- ・お産の費用
- ・医師などに対する謝礼
- ・健康診断や美容整形の費用
- ・疾病予防や健康増進のための医薬品や健康食品の購入費
- ・近視、遠視、乱視、などの矯正用メガネ、コンタクトレンズの購入費
- ・入院中の身のまわり品の購入代金
- ・アトピーやアレルギー体質の食事療法用の食品購入代…など



◎確定申告のお問い合わせ窓口は管轄の税務署になっています
(宮崎税務署の場合は宮崎市、宮崎郡、東諸県郡が管轄)。

医療相談室とは？

患者様が安心して療養できるよう、①入院・退院に関すること ② 医療保険・介護保険などの制度利用に関すること ③社会復帰に関すること ④病気や障害に関する悩みや困ったことなどのご相談に応じています。上記内容以外でもお気軽にご相談ください。